



Mr. 池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ボア ターラジ! : こんにちは!)

第3回目 6月26日(土)~7月2日(金)までのレポート

6月26日(土)「Festa Junina(6月の祭り)」POSITIVO 学校など



今日は、2時過ぎにアンデルソンさんが迎えに来る予定なので、その前に歩いて近い場所の市内観光をしました。それでも、結果的には4時間近く歩きました。

まず初めに訪問したのは、Paco da Liberdade です。ここは、1916年に建てられ、以前はクリチバのCity Hallだったところで、歴史と芸術的な世襲財産に登録されているそうです。現在は、文化センターとして使用されているそうです。

次の見学地は、Universidade Federal do Parana(Parana州連邦大学)とTeatro Guaira(Guaira劇場)です。どちらも歴史的建物でした。連邦大学は、1912年にブラジルで最初の大学として建てられました。初めは私立の大学でしたが、1950年に連邦大学となりました。メインの建物は、2～3回修復されているそうです。



Guaira劇場は、70年代に火事に遭い、再建に4年かかったそうです。メインの入り口にはレリーフのパネルもありました。



3つ目の訪問地は、Passeio Publicoです。ここは、クリチバ最初の散歩公園です。当初は動物園だったので、未だに小さい動物の小屋などがありました。公園入口(左写真の門)は歴史的な建物で、パリにある動物墓地をイメージしているそうです。近くにMemorial Arabe(アラブ記念館)がありましたが、室内が図書室のようにになっているだけで、特筆すべき建物ではありませんでした。

最後の訪問は、Centro Civicoです。ここには、政府の3つ機関の支所がありました。つまり、執行・立法・司法機関です。さらに、クリチバ市役所も近くにありました。これまで訪問してきた歴史的な建物や公園とは異なり、近代的な建物が建ち並び、クリチバの違う一面を見ました。現在は、この近代的な建物街でParana州の政治が行われているわけです。ちなみに、右写真は、司法機関です。

今日の観光で、古い歴史的な一面、自然、近代的な一面という3つの違うクリチバを見ることができました。





午後は、加藤議員秘書のアンデルソンさんに連れられ、ブラジルでは有名な「Festa Junina」というイベントに行きました。これは、子どもたちが大変かわいい衣装を着て出し物を披露するとともに、校内にゲームや遊具・飲食店が出店し、子どもも大人も楽しめるというものです。大人は、両親だけでなく親戚家族を含めて、多くの方が来ていました。イメージ的には、学芸会と大学祭を合体し、親戚一同で楽しむといった感じでした。

体育館では、学年単位ぐらいでダンスの出し物を披露していました。この時の服装が大変かわいく、民族衣装のような服装でした。そして、周りには大人（おそらく家族・親戚）たちがカメラやビデオを片手に、子どもたちを応援していました。日本の学芸会の様子と全く同じでした。子どもたちは、自分の出番の時にこのように演技を行います。それ以外の時は、校内に準備された楽しい催しコーナーへ行き家族・親戚とともに楽しんでいました。



催しの一つとして、左写真にあるような大型遊具が準備されていました。ここは、第二体育館のようなところでした。遊具は、体育館の演技場所以外の半面や外にも用意してありました。ちなみに、これらの遊具はレンタルでしょうという話でした。

また、中庭のようなスペースには、ゲームコーナーも設けられ、子どもたちが魚釣り、的あて、輪投げなどのゲームを楽しんでいました。ゲームと飲食、入場については料金がかかりますが、この収益は、貧しい人たちへの寄付として活用されるそうで、とても素晴らしいことだと思いました。

今回のイベント見学で大きく2つのことを感じました。

まずは、ブラジル教育の2面制です。この学校の施設は、とても素晴らしいものでした。日本の学校よりも遙かに進んでいたようでした。ただ、話によると、この **Positivo** という学校はかなりの「有名私立」なためこのような環境ですが、公立の学校では、雲泥の差だとの話でした。大きな格差を無くしていくことが、ブラジル教育の課題なのだと思います。もう一点は、ブラジルの人々は、人間関係を大事にするということです。今日のこのイベントにも(先週の田丸氏の孫の誕生パーティーも)、多くの親戚が参加しています。今の日本では希薄になった人間関係がここには、あるなと思いました。そして、その人間関係が好きな国民性なのでとてもフランクで優しい人が多いのだろうなと思いました。サッカーで大騒ぎするのも、「みんなで」ブラジル勝利を祝いたいという現れなのだと最近つくづく思うようになりました。



6月28日(月) クリチバ事務所訪問

仕事開始から第4週目に入りました。かなり慣れてきたとはいえ、毎日異なるところへの訪問は新鮮で刺激的です。今日は、クリチバ事務所を訪問しました。州事務局の下部組織で、先日訪問した南部地域教育事務所と同等のところ、学校現場との架け橋になっているところです。しかし、クリチバ事務所は学校数が多いので、この事務所の下部にさらに8地区の支所があり、今日は、その8地区の代表者とクリチバ事務所担当者との会議の日でした。これまでのように、キャップや担当者に説明を受けるのではなく、今日は会議に参加させてもらうという新しい体験をさせてもらいました。上写真手前の人が事務所のキャップ、セリア・マリゼさんです。8地区の代表者、事務所担当者を含め総勢30名ほどの会議でした。



会議では、内容不明なところもありましたが、概ね

- ① 教師の欠勤対策について
- ② 学校経費の問題について
- ③ PTA への対応について
- ④ 苦情対応について
- ⑤ その他 (連絡事項)

といった内容でした。これらは州の教育局から降りてきた内容をさらに各支所に確実に伝達するとともに各項目に関わる各支所での問題点を出し合うというものでした。各支所においては、さらに、各学校の校長を集め、さらに伝達や問題の共有化を図るそうです。大変広大な Parana 州での教育の徹底を図るために、このような会議システムが徹底されていくことが教育の均等化につながりとても素晴らしいことだと感じ、そのようなコメントを発言させてもらいました。

会議の後、それぞれの支所責任者から、日本の教育についての質問が多数有り、それへの回答を行いました。日本の教育には大変興味があるようで、次から次への質問でした。



特に、先生方の休日や長期休暇時の対応 (講師派遣) については、本日の議題とも関連し最初の質問として寄せられた。

その後、館内をぐるりと回り、各部署の説明を簡単にして頂きました。先日の南部地域教育事務所よりかなり大きく、一つ一つが部屋で仕切られ、担当者が仕事をしていました。例えば、ここ

にも苦情対応の担当の部屋もありました (左写真)

巡回中に、施設設備の部屋を紹介してくださった方の服に目がとまりました (右写真)。今日はワールドカップブラジル戦のためか、この人の着ている服はブラジル応援服で、ブラジル国旗がプリントアウトされていました。さすが……です。



6月29日(火) クリチバ市事務局訪問

今日は、クリチバ市の教育局を訪問しました。昨日訪問したクリチバ教育事務所とどう違うのかと疑問に思われますが、昨日訪問した教育事務所は、州の教育局（教育委員会）の下部組織であり、今日の訪問先は、市の教育局（教育委員会）で、それぞれ独立した仕事をしています。つまり、ブラジルでは、州と市の教育委員会の管轄が異なるわけ

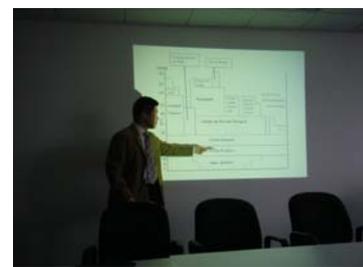


です。良い例が、今日の話の中にもありました。Parana 州では、今、教育改革を進める中で、1年～4年生は市、5年～高校生までが州で管轄していこうと考えています。しかし、市の学校の中で最近できた11校については、これまで通り1年～9年生までを管轄するという事です。それらの学校は、新しくできたという理由だけで、州の管轄にはしないそうです。根本となる教育システムですら、州のシステムに従わないそうです。理解に苦しみますが、それがブラジルであり、日本のように均等な教育が行き渡らない所以がこんなところにもあると思いました。国、州、市の教育機関が日本のように統一化されれば、もっと良いシステムが完成するので残念に思いましたが、それについては、ブラジルの方もすでに分かっていることなので、それ以上言及することはやめました。



今日の訪問では、市の教育局の幹部が10人ぐらい出席していました。会の中で、市の教育システムの概略を伺い、後日、私が興味ある部署を1週間程度訪問することにしました。ですので、クリチバ市教育局の各部署の内容や情報交換内容については、各部署を訪問したときに紹介します。

概略を伺った後、日本の教育やシステムについて私の方からパワーポイントで説明し、豊橋の学校案内のビデオを見て子どもたちの学校生活の様子を紹介しました。日本のシステムの中で、小中学校の義務教育では、100%の子どもが学校へ行くことに対して驚かれ、また、子どもの学校生活の日課についての説明では、特に掃除に対してとても興味深そうでした。以前、州の評議会の時にもそうでしたが、子どもがみんなで掃除をすることの意義や掃除をしているときの様子を話したときには、内容的には理解して頂けるのですが、「そんなことを言ったら殺される」などと言う人もいるくらい、ブラジルでは、子どもが自分で掃除をすることに対しては抵抗があるようでした。



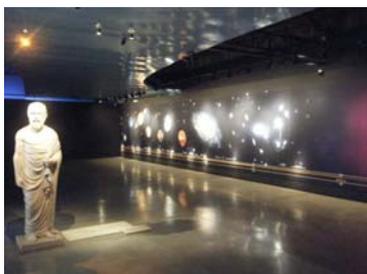
今日は、ワールドカップ日本戦が11時からでした。会議が終わったのが、12時を過ぎていたため、クリチバ市の評議会（教育委員の集まりの会）の会長さんが、テレビ観戦できるレストランと一緒に日本戦を觀ましよう誘ってくださり、応援しました。PKでの敗戦、とても残念でした。一緒に見てくださった方も残念がってくださいましたが、最後には、「この後は一緒にブラジルを応援しましょう」という言葉で終わりました。

6月30日(水) PNFM(ニュートン・フレイレ・マイア科学公園)訪問

晴天に恵まれた中、今日は科学について学習する PNFM (ニュートン・フレイレ・マイア科学公園)を訪問しました。クリチバ市中心部から車で40分ほどのピニャイス市にあり、クリチバ市からはちょっと遠距離になります(右写真は、上空から見た施設全体の様子、敷地面積は4万km²、以前はただの展示会場、政権交代後科学館に)。ニュートン・フレイレ・マイアはクリチバ市に関わりの深い生物学者で、名前を使っているそうです。



館内に入ると、まず、「科学の紹介をする部屋」でソクラテスが出迎えてくれました(左写真)。ビッグバンによる宇宙の発生がパネルで紹介され、科学の始まりを感じさせてくれました。ソクラテスの出迎えは、「科学は決して自然に起こるのではなく、人の手により作られてきたものである」ということを表したため、館内の至る所にその内容に関わる著名人の胸像が設置されていました。



「科学を紹介する部屋」の後も、「街や文化と科学の関わり」「Google Earth」「街と数学」「電気」「水」「植物」に関する多くの部屋が用意され、大人の私も興味深く回ることができました。右写真は、ちょうど施設訪問をしていた子どもたちとともに静電気の実験に参加している様子です。静電気を蓄えた物体を一人の子に持たせ、人の輪をつくることで、手をつないでいる全員に電気が回る実験です。私も、子どもたちと一緒に2万ボルトを感じてきました。



屋外には、Parana州全体の高低差と位置を体感できる巨大模型がありました。高低差を1段100mで表現し、399の各市を丸い玉で記名し位置が分かるようにしてありました。左写真は、クリチバあたりからParana州全体を見渡した景色です。クリチバは標高900mの高地にあり、クリチバ周辺から湧き出ている水が、イグアスの滝に流れ込んでいると聞きびっくりしました。

ここの施設の展示物は、子どもたちに伝えたいメッセージをもとに作成され、そのための様々な現象の「対象性」をうまく利用した展示を工夫したり、実験や体験を活用したりしていました。また、各展示物に説明があつて子どもが勝手に館内を回るシステムではなく、担当の先生が説明を確実に言い伝えたいイメージを子どもに理解してもらうように努力していました。

大変素晴らしい施設で、その方針や展示物に感心しましたが、何分市中心部からかなり離れ、利用数が少ないのが大変もったいないように思いました。



7月1日(木) DITEC(教育局の情報管理部署)訪問

一日情報処理付けでした。今日の訪問は、教育局の組織の一部として位置づけられている DITEC (情報管理部署) です。ここは、州が 99.9%株式を所有している外部機関です。例えば、右にあるのは、教育局のHPですが、このようなサイトの作成、子どもや教師に関する情報収集や管理などすべて行っているわけです。



最初は、ここの施設内を大まかに回り、説明をして頂きました。説明によると、教育局だけでなく、州の各局の情報管理のほとんどを行っているようです。身分証明の ID 発行に関わる印刷・発送から交通違反者の CP 管理と違反通知の発行など、多岐にわたる情報を CP 管理していました。もちろん情報管理するだけでなく、管理システム開発なども行う



部署もあり、総じて言えば、大変広大で、人口の多い Parana 州全体の情報管理システム開発とその管理運営を行っています。例えば、一日 1200 件ぐらいの交通違反者の管理も行うそうです。(左写真は、この建物のコントロール室ですが、基本的にはどの部屋もコンピュータだらけでした)。

午後からは、教育局に絞った説明をして頂きました(写真は教育部門の責任者のマルシアさん)。教育に関するものだけで、現在 70 のシステムを開発し、管理運営しているそうです。冒頭に説明したHPのサイトもその一つです。基本的なプロジェクトとしては、教師・子ども・学校・パラナデジタル(教師が活用するソフトウェア管理)に関する事など、教育に関する事全般にわたっています。例えば、Parana 州内にある州立学校と一部他の学校も含め 2600 校ぐらいの学校へ配給する給食食材の管理もここで行われています。2ヶ月前の実績(4ヶ月に一回程度だそうです)では、100 万人分の生徒の食材 2000 トンの配給計画から発送まで行ったそうです。しかも、食材は、一度クリチバに集められ品質チェックを行った後、クリチバで分配され、Parana 州全土に配送されるとのことでした。システム自体の理解にも苦しみますが、ものすごいコンピュータ管理にもびっくりしました。



最後に軟らかい話。DITEC の方と昼食をともにしました。私がまだ食べていないバヘアードを食べに行きました。これは、本来、クリチバ近郊市の Morretes の郷土料理で、12 時間以上煮込んだビーフやベーコンなどの肉にマンジョーカの粉をかけ、バナナやライスを添えて食べるものです。さすがよく煮込んであるだけに、肉も軟らかく、ビーフシチューに似ている感じでした。おいしかったです。(写真は、昼食を食べたレストラン)

